

**共同プレス声明**  
**マクリ・アルゼンチン共和国大統領による日本国訪問**

2017年5月19日  
東京にて

2017年5月19日、安倍晋三日本国内閣総理大臣とマウリシオ・マクリ・アルゼンチン共和国大統領は、東京において有益な会談を行った。両首脳は、二国間関係の更なる深化及び日・アルゼンチン戦略的パートナーシップの更なる強化に対するコミットメントを再確認した。

両首脳は、2016年11月21日の日・アルゼンチン共同声明に基づき、以下のとおり、今日までの進捗及び成果を確認するとともに、二国間関係の更なる発展について指示を行った。

## I 二国間関係

### 政治関係

1. 安倍総理大臣は、マクリ大統領が進めるアルゼンチン国内の改革を引き続き支持する旨表明するとともに、大統領の指導力が中南米の改革にとって重要であると強調した。
2. 両首脳は、2016年11月の首脳会談以降、両国の政治指導者、国会議員及び産業界の要人の往来が継続していることを歓迎した。両首脳は、本年6月にブエノスアイレスで開催予定の政策協議を通じて、G20や第11回世界貿易機関（WTO）閣僚会議（MC11）等国际場裡での緊密な調整を含め、様々な分野で基本的価値を共有する戦略的パートナーとして、両国の協力を更に強化していくことを確認した。
3. 両首脳は、2018年の両国間の外交関係樹立120周年の機会に、政治・経済・文化・人的交流を更に拡大するとともに、記念行事その他の行事を組織するため積極的に取り組んでいくことで一致した。
4. 両首脳は、南極関係のフォーラムにおける一層広く、効果的な立場の調整を通じ、南極の科学的協力に関する二国間関係の強化を継続することへの関心を強調し、日本の国立極地研究所とアルゼンチン国立南極局との間での南極の科学協力に関する覚書の署名に期待を表明した。

## 経済関係

5. 両首脳は、2016年9月に開始された二国間の投資協定交渉について実質合意に至ったことを歓迎するとともに、その早期の締結及び発効を通じて、両国の民間企業間の交流を強化していくことを確認した。両首脳は、2016年9月に開始された二国間の投資協定に関する交渉の早期妥結を通じて両国民間企業間の交流を強化していくことを確認した。両首脳は、サービス貿易及び電子商取引に関する二国間協定についての交渉のための作業を開始することを指示した。
6. 両首脳は、税関相互支援協定について、交渉が進展していることを歓迎し、早期締結の意図を共有した。この協定の目的は、関税法令の適正な運用を確保し、並びに関税法令違反を防止し、調査し、及び抑制するため、税関当局を通じて両国を支援すること、そして、それぞれの税関手続の簡素化及び調和のための協力的な取組を行うことである。
7. 両首脳は、両国間の投資及び経済交流を更に推進するため、二重課税の回避に関する協定の締結の重要性を再確認するとともに、早期に協議を開始することについて関係当局に指示した。
8. 両首脳は、質の高いインフラ投資の重要性を確認しつつ、鉄道部門の案件で開始された、国際協力銀行（J B I C）によるアルゼンチンにおける貸付再開を歓迎するとともに、更なる案件形成に関する期待を表明した。マクリ大統領はその他の日本政府関係機関の資金スキームの利用についてのアルゼンチン側の関心を表明した。両首脳は、両国間の投資及び経済交流を更に推進すべく、ビジネス・投資環境の更なる改善に取り組むことを確認した。
9. 両首脳は、アルゼンチン産生鮮牛肉及び生鮮羊肉並びに日本産生鮮牛肉の貿易に関する取組の進展を歓迎した。日本側は、パタゴニア地域産生鮮牛肉及び生鮮羊肉について、本年3月の現地調査の結果に基づき、これらのアルゼンチンの産品の日本向け輸出の検討の一環として、食料・農業・農村政策審議会への諮問を行った。日本側は、他の地域産の生鮮牛肉についても、アルゼンチン側の要請を踏まえ検討に着手する。また、アルゼンチン側は、日本側の要請を踏まえ日本産生鮮牛肉のアルゼンチン向け輸出の検討の一環として、本年9月までに実施される日本における現地調査のため協力することに同意した。両首脳は、アルゼンチン産生果実の市場アクセスに関して進行中の作業の進展に向けて取組を継続するよう指示した。両首脳はまた、口蹄

疫等の越境性動物疾病に関する日本とアルゼンチンの獣医当局及び国立獣医研究機関間の協力の進展を支持した。両首脳は、日本国農林水産省とアルゼンチン農産業省との間の農業、畜産業、漁業、林業及び食料産業分野における協力覚書が署名され、これらの分野に係る二国間の対話が設置されたことを歓迎し、この枠組みの下での第1回会合の早期実現に向けた調整を指示した。

10. 両首脳は、日亜貿易投資合同委員会によって作成された「日亜貿易投資関係拡大に関する協力のためのロードマップ2017」を歓迎し、その各事項の着実な実施の重要性について一致した。また、両首脳は、5月19日に日亜経済フォーラムが東京において成功裏に開催されたこと、2017年後半に日亜貿易投資合同委員会を東京において実施すること、2017年後半にビジネス環境整備委員会を実施することを歓迎した。
11. 安倍総理大臣は、福島第一原子力発電所での事故後に適用された輸入要件の再検討を加速するとのアルゼンチンの決定を評価した。
12. 両首脳は、2017年1月に日本貿易振興機構（JETRO）ブエノスアイレス事務所への日本人駐在員の派遣が再開したことで、ビジネスに関する情報発信力が強化されたこと、7月に予定されているJETROによるアルゼンチンへのサービス産業ミッションの派遣を歓迎した。
13. 両首脳は、日本国総務省とアルゼンチン共和国通信省との間の地上デジタル放送分野及び情報通信技術分野における協力覚書が署名されたことを歓迎するとともに、両分野における二国間協力が更に進むことへの期待を表明した。
14. 両首脳は、アルゼンチンの中小企業の生産性向上を目的とした「改善（カイゼン）プロジェクト」の開始に向けた準備の進展を歓迎し、また、アルゼンチン側の関心を考慮し、「一村一品」を促進するための協力について調整を進めるよう指示した。また、両首脳は、中南米及びアフリカへの三角協力を拡大するよう関係当局に指示した。
15. 両首脳は、2017年5月5日の第4回日・メルコスール経済関係緊密化のための対話における、現在の貿易政策や経験に関する実質的な意見交換を歓迎し、日本とメルコスールとの間の経済連携の強化を継続するよう関係当局

に指示した。

## 人的交流

16. 両首脳は、両国間の人的交流や文化交流が深化していることを歓迎した。マクリ大統領は、観光の面において、毎年ブエノスアイレスで開催され、今年で22回目を迎える「ラテンアメリカ国際観光展」に日本が初めて参加することを歓迎した。両首脳は、日本にとって中南米地域の国との間で初めての取決めとなるワーキング・ホリデー制度に関する日本国政府とアルゼンチン共和国政府との間の協力覚書の署名を歓迎した。この制度は、両国間の一層の協力並びに文化及び一般的な生活様式に関するより深い相互理解をもたらし、青少年交流及び観光を促進するものである。
17. 両首脳は、2018年ユース・オリンピック・ブエノスアイレス大会と2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の成功に向けて、人的交流を含め、スポーツその他の分野における協力を更に加速させることで一致した。マクリ大統領は、日本政府による「スポーツ・フォー・トゥモロー (Sport for Tomorrow)」の取組を高く評価した。
18. 両首脳は、日本政府の国費外国人留学生制度及び招へいプログラム、並びにJICAの研修プログラムを含む様々なプログラムにより、この1年間で100人を超えるアルゼンチン国民が訪日したことを評価し、両国間における研究・教育分野の交流の着実な進展を歓迎した。

## II 国際場裡における協力

19. 両首脳は、普遍的に認識された国際法の諸原則に従い、平和、安定、安全並びに航行及び上空飛行の自由を維持すること、並びに武力による威嚇又は武力の行使に訴えることなく、紛争を平和的に解決することに向けたルールに基づくアプローチの重要性を改めて強調した。
20. 両首脳は、北朝鮮による核実験及び弾道ミサイル発射を最も強い表現で非難するとともに、北朝鮮に対し、これ以上のいかなる挑発行動も自制し、全ての関連する国際連合安全保障理事会決議及びその他の国際的なコミットメントを遵守し、核兵器の不拡散に関する条約 (NPT) 及び国際原子力機関 (IAEA) の保障措置へ復帰するよう強く求めた。両首脳は、全ての関連する国連安保理決議の持続的かつ包括的な履行の重要性を再確認した。両首脳はまた、北朝鮮に対し、拉致問題を直ちに解決するよう強く求めた。

21. 両首脳は、2018年にアルゼンチンが議長国を務めることとの関連も含め、G20の枠内での共通の関心事項について協力を継続することで一致した。
22. 両首脳はまた、保護主義や内向き志向の台頭を懸念しつつ、WTOが中心的な役割を担う多角的貿易体制の重要性と同体制への両国の強固なコミットメントを再確認し、WTOの機能を更に強化すべく、MC11（12月11～14日、於：ブエノスアイレス）の成功に向けた取組を強化していくことで一致した。
23. 安倍総理大臣は、アルゼンチンがその公共政策を改善するために経済協力開発機構（OECD）の高い基準と好事例を取り入れ、OECDに対する関与を増大する方針をとっていることを歓迎した。また、安倍総理大臣は、OECDにおいて将来的に新たな地位を獲得したいというアルゼンチンの希望につき真摯な関心とともに留意した。